

株式会社テラスカイ

顧客DCからAWSへ「SAP」会計システムを含む物理サーバを全面移行 CloudEndureを導入し1台あたり30分のダウンタイムを実現



目的

顧客であるオートバックスセブンでは基幹システムをデータセンターで運用していたが、保守契約が切れるタイミングでAWSに移行することに。費用・スケジュールの要件を満たす、物理サーバをAWSに移行する手段を求めている。

ソリューション

物理サーバからAWSに直接移行が可能で、既存サーバにエージェントをインストールするだけで利用できる、作業効率のよいCloudEndureを採用。本番移行は顧客営業時間外となる週末を利用して実施。

効果

移行対象サーバは検証時、本番時ともに問題なく順調に移行できた。ディスクサイズ1TB弱のサーバを含んだ14台のサーバの切替は平均ダウンタイム35分、最大でも約2時間。土曜の午前中に全てのサーバの立上げが完了。土曜日の夜に夜間処理を走らせるテストを行い、日曜の午前中には確認作業を含めた全ての作業が完了した。

株式会社テラスカイは2017年7月下旬から11月にかけて、子会社BeeXと共に、オートバックスグループ店舗のフランチャイズ本部としてカー用品の卸売及び小売、車検・整備、車両買取・販売、板金・塗装等を行っているオートバックスセブン(以下、ABS)の「SAP」会計システムをAWSへと移行しました。システムを構成するサーバ19台のうち、AWS上で新規構築を行った5台を除く14台の移行には、費用やスケジュール、作業効率等の要件を満たしたライブマイグレーションサービス「CloudEndure」を採用しました。MKIによるサポートもあって、14台の物理サーバを自社データセンターから週末2日間で無事に移行させることができたといいます。

クラウド専門インテグレーターとして2006年に創業されたテラスカイは、特にSalesforceの導入支援に強く、2014年から取組を開始したAWS導入支援と合わせた導入実績は3,000件を超えます。クラウドへのSAPマイグレーション経験が豊富なBeeXや、クラウド運用サービスを支援するSky365といった子会社と共に、AWSを始めとしたクラウドへのシステム移行や運用サービスを提供しています。

御代 裕太氏
株式会社テラスカイ
AWS事業部 営業部



IT運用コスト3割減を目指し、ABSではクラウドへのシステム移行を決定

オートバックスセブンではIT運用コストの多さが課題であるとして、2020年3月期までの中期経営計画でもITコスト削減を目指しています。サーバをクラウドに移行した場合のハードウェアや運用保守費用などの費用が減ることを試算した上で、自社データセンター内サーバの保守契約が2017年11月に切れるのを機に、「SAP」会計システムを稼働させていた物理サーバからAWSに移行しました。

その移行プロジェクトを担当したのが、テラスカイと、SAPのクラウドマイグレーションのノウハウ

を豊富に持つ子会社BeeXでした。移行対象となったサーバは、検証・開発環境や周辺システム、データベースのサーバを含めた合計19台で、そのうちの5台はAWS上で新たに構築し直すためデータのみを移行。残りの14台をサーバ構成ごと移行するにあたり、テラスカイではライブマイグレーションツール「CloudEndure」を採用しました。採用の背景について、同社AWS事業部 営業部の御代裕太氏は次のように説明しています。

物理サーバからAWSに直接移行でき、要件を満たすCloudEndureを採用

「物理サーバからAWSへの移行に際して当初計画していたのは、物理サーバを一旦仮想化して、仮想サーバからツールを使ってAWSに移行するという2段階移行でした。しかしながらこの方法では移行を行うエンジニアの作業費用がかかりすぎること、時間もかかることから、別の移行手段を探していました」(御代氏)

今回のプロジェクトで移行作業を担当した、同社

AWS事業部 ソリューション部 の技術担当者はCloudEndureを採用した経緯をこう語ります。「別の移行手段を検討した際にはCloudEndureを含め3種類のマイグレーションサービスを比較検討したのですが、費用やスケジュールの要件を満たせたことと、物理サーバからAWSに直接移行ができることがCloudEndure採用の決め手になりました」



名称 株式会社テラスカイ

所在地 東京都中央区日本橋二丁目11番2号

事業内容 2006年創業のクラウド専門インテグレーター。AWS上での個別アプリ開発や、Salesforce導入支援のノウハウを活かして開発した、コーディング不要のSalesforce画面開発サービス「SkyVisualEditor」やSalesforce連携グループウェア「mitoco」を提供している。

<https://www.terraskey.co.jp>

本番サーバは、金曜日終業後から土曜日昼までに移行作業完了

今回のプロジェクトは、4ヶ月半という短い期間。2017年7月下旬から検証・開発サーバ、8月下旬には本番サーバのAWS同期を開始しました。10月上旬に移行リハーサルを行い、最終的に11月に本番移行を実施しました。「移行リハーサルは問題なくスケジュール通りに進みました。本番移行はお客様及び100社に及ぶ子会社やフランチャイズ加盟法人の業務に影響が出ないよう、金曜日の終業後から月曜の始業前までに遂行することが絶対条件でした。土曜日の朝から移行対象サーバを順次切り替えていき、お昼には全てのサーバが

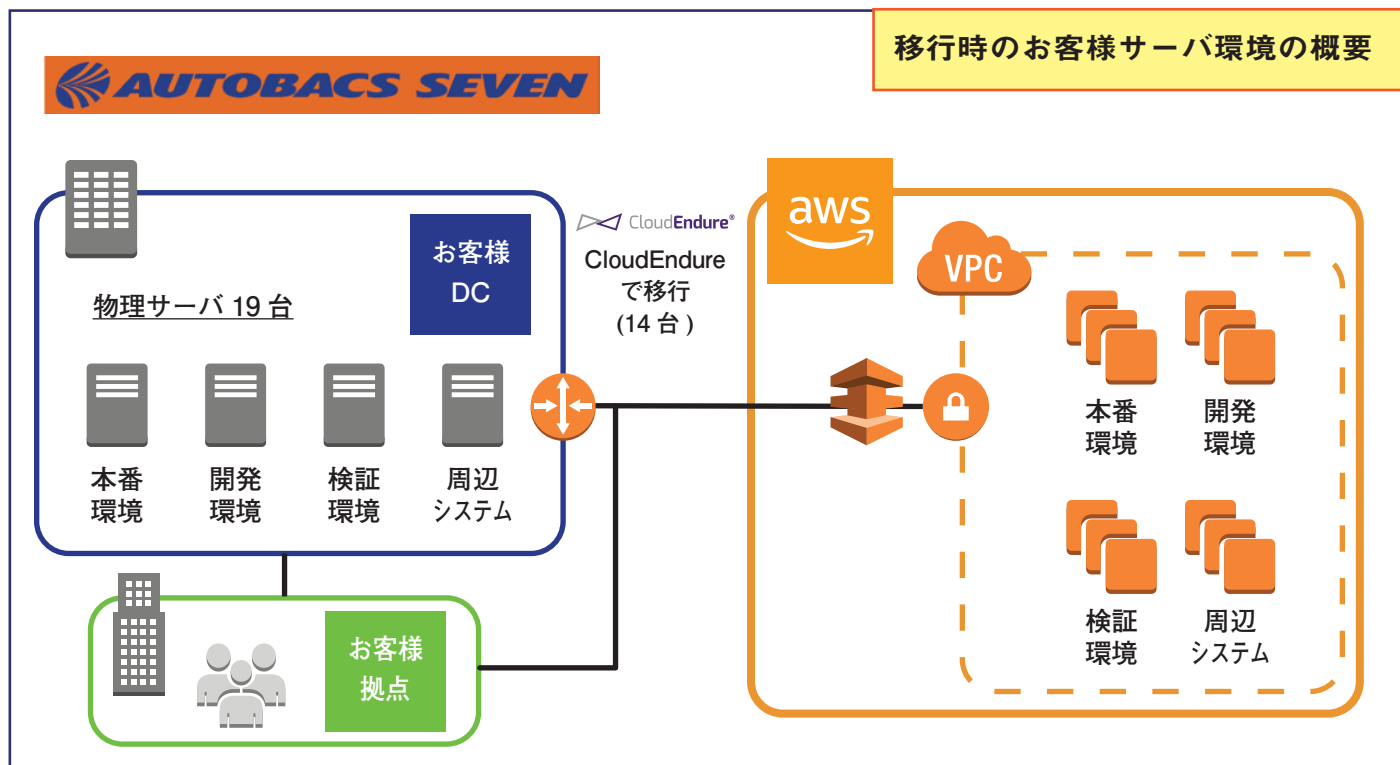
起動していることを確認できました。システムが問題なく稼働している事をチェックし、その日の夜のうちに夜間処理のテストも実施、翌日曜日の朝に無事移行完了となりました」(技術担当者)
移行対象サーバのダウンタイムについても、「対象サーバは平行して切り替えを行っていきましたが、ダウンタイムは1台あたり大体30分でした。一番長いもので2時間程度でしたね」と満足できる結果でした。

今後の展望：物理サーバを含む案件でCloudEndureを積極活用したい

今回初めてCloudEndureを採用し無事移行を完了したことで、「プロジェクトに関して当社がプレスリリースを発表した後、同規模の基幹システムクラウド移行のご相談・お問合せが増えました。案件の規模やサーバ構成にCloudEndureがはまれば、今後も提案していきたいと考えています」と営業担当の御代氏は語ります。
「過去の移行プロジェクトは物理／仮想共に利用している構成だったので、物理サーバからクラウドに移行する場合は一旦仮想化してから全仮想サーバをクラウドに移行する方法で対応していました。この方法だと、移行元サーバに対する作業が煩雑でダウンタイムが長くなるというデメリットがありました。CloudEndureは移行元サーバに

エージェントをインストールするだけで利用開始でき、簡単で手間がかかりません」(技術担当者)

また、「今回初めてCloudEndureを採用するにあたり、事前にMKIとも密に話をしてこれなら要件を満たせると判断したと同時に、今後他のプロジェクトにも活かせるツールだと感じました。いま既に別のプロジェクトでもCloudEndureを使っていて、チーム内にノウハウも溜まってきています。MKIのサポートも回答の精度が高く、回答レスポンスが早いので、移行本番前に課題を潰すことができました」と技術チームでは評価しており、今後も積極的にCloudEndureを活用していきたいとのこと。



※このカタログに記載の会社名、製品名は、それぞれ各社の商標および登録商標です。 ※このカタログに記載されている内容は予告なしに変更する場合があります。

【お問い合わせ先】



〒105-6215 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー
E-mail : sales@ml.mki.co.jp

コーポレートサイト : <https://www.mki.co.jp/>